

滋賀医科大学雑誌投稿規程

(内容)

第1 本誌の和文名称は「滋賀医科大学雑誌」、英文名称は“Journal of Shiga University of Medical Science”とし、和文又は欧文の原著論文、総説、症例報告等を掲載し、電子ジャーナルとして本学ウェブサイト上にて公開する。また、本学機関リポジトリに収録し、公開する。

(目的)

第2 本誌発行の目的は次の通りとする。

- 1 医学・看護学の学術的な発展に寄与する。
- 2 本学に在籍する教職員に研究発表の場を提供するとともに、学際的な共同研究活動を促進する。
- 3 本学の研究・教育活動の成果をひろく社会に還元する。

(投稿資格)

第3 投稿者は、滋賀医科大学に所属する教職員、又は滋賀医科大学雑誌編集委員会（以下、編集委員会という。）が適当と認めた者とする。

(論文の種類)

第4 掲載される原稿は医学・看護学に関連する研究領域のもので、次の範囲に含まれるものとする。

- 1 投稿原稿は未発表で、かつ二重投稿とされないものに限る。
- 2 倫理的配慮がなされており、原稿中にその旨が明記され、関係書類が添付されていること。
 - 1 研究内容が「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の適用となる場合は、倫理審査委員会の承認証（写）を添付のこと。
 - 2 研究内容が「臨床研究法」の施行後に適用となる場合は、認定臨床研究審査委員会の承認証（写）を添付のこと。
 - 3 個人情報記載法に留意し、必要に応じて患者個人から承諾を得ること。
- 3 論文の種類は以下の通りである。
 - 1 原著論文（Article）：独創的で新しい知見を含むもの
 - 2 総説（Review）：研究の総括、文献についてまとめたもの
 - 3 症例報告（Case report）：症例を記録し報告する価値のあるもの
 - 4 研究報告（Research note）：研究として報告し記録にとどめる価値のあるもの
 - 5 実践報告（Practical report）：看護実践、教育実践、海外視察などの報告についてまとめたもの
 - 6 その他（Miscellaneous）：医学・看護学に関する意見、提言などで編集委員会が適切と認めたもの

(論文の受付)

第5 論文原稿は、編集委員会が規定した Microsoft Word テンプレート(投稿原稿体裁例)に従って作成し、作成した Word ファイルを編集委員会あてに原則としてメール添付で提出すること。電子メールで提出できない事情がある場合には USB メモリーなどの媒体による提出も認めるが、事前に編集委員会に連絡し、受領可能な記録フォーマットであることを確認して提出すること。記録媒体による提出の際は、万一の媒体の紛失や破損に備えて、各自でバックアップをとり、保存しておくこと。編集委員長は、受付年月日を記した原稿受領メールを投稿者に返送する。編集委員会のメールアドレスは、

j-sums@belle.shiga-med.ac.jp とする。

(執筆要領)

第6 論文は、原則として日本語または英語によるものとし、次の各号に掲げる点に留意して作成したものでなければならない。

- 1 1 (one) と l (el), 0 (zero) と O (capital oh) は区別して入力すること。外字や文字飾りなどの機種固有のものは変換できないので、使用しないこと。また、万一特別に必要なときには、原稿上に赤字で指示するものとする。
- 2 和文の表記は、原則として「常用漢字表」(平成 22 年 11 月 30 日内閣告示第 2 号)、「送り仮名の付け方」(昭和 48 年 6 月 18 日内閣告示第 2 号, 平成 22 年 11 月 30 日内閣告示第 3 号により一部改正)、「現代仮名遣い」(昭和 61 年 7 月 1 日内閣告示第 1 号, 平成 22 年 11 月 30 日内閣告示第 4 号により一部改正)によるものとする。
詳細は、文化庁国語施策情報ウェブサイト
https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/index.html を参照のこと。
- 3 医学用語は、日本医学会選定のものを用いること。
- 4 ラテン語の学名はイタリックで、日本語の動植物名は片仮名で書くこと。
- 5 略号は、国際的慣例に従い、単位及び単位記号は、国際単位系による(例: nm, μ m, μ g, μ l, Hz 等)。
- 6 外国人名は、原綴のままとする。国名等は、原綴又は片仮名で書く。
- 7 和文論文の文中におけるアルファベット、アラビア数字、記号は原則として半角文字で記載すること。
- 8 文献の本文中の引用は、その右肩に番号を付け記載する。
末尾の文献リストは、本文中における引用順に付番して列記する。本文内の引用箇所には、本文と同じ字体で[2]のように括弧で囲んで引用順番号を記載し、同じ箇所に引用文献が 2 件以上ある場合は、[3-5]のように記載する。著者は略さず全員を掲げる。記載順序は雑誌の場合、著者名、論文表題、雑誌名、巻(号):始め-終りのページ、年、とする。雑誌名の略記は、“*Index Medicus*”または「医学中央雑誌」に記載のある場合は、その略名表によるものとする。また、著書単行本の場合は、著者名、書名、版次(編集者名)、発行地、発行所、引用ページ、発行年とする。ウェブ情報の場合は、著者名、ウェブページの題名、ウェブサイトの名称、更新日付、入手先、(入手日付)とする。

記載例

- [1] 伊藤 英樹, 堀江 稔. 不整脈と原因遺伝子. 日本内科学会雑誌, 95:11-16, 2006.
- [2] Kashiwagi A, Araki S. Relation between polymorphisms G1704T and G82S of RAGE gene and diabetic retinopathy in Japanese type 2 diabetic patients. Intern Med, 44(5):397-398, 2005.
- [3] 堀池喜八郎. 現代栄養科学シリーズ 第 17 巻 生化学 3 章 酵素 (奥 恒行, 藤田 美明編), 東京, 朝倉書店, 60-78, 1996.
- [4] Okamura T, Toda N. Nitric oxide derived from perivascular nerves and

endothelium. Nitric oxide and the regulation of the peripheral circulation (PJ Kadwitz, DB McNamara ed.), Boston, USA, Birkhauser, 99-109, 2000.

[5] 国立がん研究センターがん情報サービス. 知っておきたいがんの基礎知識. がん情報サービス. 2017-9-20. http://ganjoho.jp/public/dia_tre/knowledge/basic.html (参照 2017-11-21)

9 欧文論文の場合、論文の種類を問わず、標題に続いて英文抄録を、文献リストに続いて和文抄録を記載すること。和文論文の場合、論文の種別を問わず、標題に続いて和文抄録を記載し、かつ原著論文・総説・症例報告に限り、文献リストに続いて英文抄録を記載すること。英文抄録の長さは 300 語以内、和文抄録の長さは 600 字以内とする。

10 英文抄録の後に、本文内容を特徴付ける 5 つ以内の英文キーワードを列記する。同様に和文抄録の後に、5 つ以内の和文キーワード（該当する和文用語がない場合は、英文でもよい。）を列記する。

11 欧文論文の場合、原稿種別を問わず、投稿前に英文校正業者による英文チェックを受けること。

（掲載の決定）

第 7 原稿の種類と投稿論文の採否は、査読者の意見を参考にして編集委員会が決定する。

（査読）

第 8 査読者は 2 名とし、第 1 号（医学編）においては編集委員長、第 2 号（看護学編）においては副委員長が推薦した者があたる。

（校正）

第 9 原稿の校正は、著者の責任において行う。なお、内容に影響を与える改変は許されない。

（掲載料）

第 10 論文の掲載料は不要である。また、編集委員会では別刷りを作成しない。別刷りが必要な場合は、投稿者自身で最終掲載データを用いて別刷りを作成すること。

（依頼原稿）

第 11 編集委員会が特に必要と認めたときは、本学内外に論文の寄稿を依頼し、本誌に掲載することができる。

（著作権）

第 12 本誌に掲載された論文の全ての著作権（著作権法第 27 条及び 28 条に規定する権利を含む。）は、滋賀医科大学に帰属する。